

月刊 岩小舎 7月号

■自主山行の記録

「」 6月4日(土) 「」

北アルプス／錫杖岳 前衛フェース

「」

◆メンバー：横川秀樹(L)、伊藤幸雄

◆記録：横川秀樹

前夜に槍見温泉の駐車場に集合。車中泊。夜中に車の屋根を叩きつける強い雨。しかし、朝4時過ぎに起きたときはやんでいた。

今日の天気予報は、午後から雷雨。今ひとつ気が乗らないが、とりあえず、テントを背負って予定通り出発することにした。

古い電話ボックスに登山届の提出箱が置いてある。そこから登山道で、クリヤ沢沿いに道が続く。のんびりした歩きかと思ったら、思わぬ急登で疲れる。1時間ほど行くと沢を渡る地点だが、飛び石伝いにいくのは危なそうなので裸足になっての徒渉。そこから30分前衛フェースが目の間に現れた。錫杖沢出合だ。

この錫杖沢も予想に反して、かなりの急な沢で、出合には雪渓が長さ100mほど残っている。簡単なアプローチで取り付きまで行けると考えていたが、想定外の事態に登攀意欲はほぼ消滅。

散策モードに切り替えて、出合に荷物を置き、クリヤの岩小舎を見てくることにした。登山道を上流に5分ほど歩いて沢を渡るとすぐにそれと分かる岩小屋があった。

左に踏み跡があるのでそれを辿っていくと3ルンゼの取り付きに出た。あたりにはまだ雪が残っていてちょっと危ない。

そして、もと来た道を引き返し錫杖沢出合に戻ると、3パーティほどが集まっていた。我々の気分は、もう帰ろうかなという感じだったが、他パーティは、雷の予報や立ちはだかる雪渓をまったく気にしていないみたいで、沢を登って行く。

不思議なもので、そういう姿を見ているとや

っぱり行くかなという気になってくる。3人パーティの親切な女性から、1ルンゼの取り付きまで簡単に行けるという情報も得たので行くだけ行ってみることにした。

そして、1ルンゼを2ピッチ登って同ルートを下降し、続いて左方カンテを2ピッチ登って同ルートを下降し、それで終了ということにしようとして話まとまる。

1ピッチ目、伊藤さんリード。ルンゼの左の

【今月の目次】

■自主山行	
北ア／錫杖岳 前衛フェース	1
谷川周辺／高倉山～湯蔵山	2
日和田 RCT	3
カモシカ山行 奥多摩／仏沢～三頭山	3
カモシカ山行 長谷川杯コーストレース	4
奥多摩／岳嶺岩 A1トレニング	5
ハヶ岳／小同心クラック	6
中山尾根	6
丹沢／大山川	7
■同人便り ～想い出の山行～ 平井 真	8
■山の学習帳 No.14	9
～アルコール その3～	
■講習山行	
南ア／塩見岳	9
広沢寺／RCT	11
丹沢／マスク嵐沢	11
奥多摩／倉沢谷本谷	12
丹沢／セドの沢左俣	13
■じん帯繁盛記 ～その10～	14
■こちら技術委員会 ～日本昔話～	16
■編集室だより&会員一言集	17
■6月の山行一覧・	18
■8月号の予定	19

フェースから弱点を拾って登っていく。難しいところではピトンがたくさんあるので安心だ。前がつかえていたので短めに切って、次は私が行くが縦ホールドが多く、印象としては少し手ごわい。

で、計2ピッチ(ルート図などでは1ピッチ分)を登ったところで雷&雨。予定を変えてとっとと下る。

錫杖沢出合から駐車場までは1時間。駐車場をベースにして通っても十分行けそうだと感じた。

じた。

【行程】

槍見温泉駐車場(4:55)～登山道入口(5:00)～徒渉地点(6:00)～錫杖沢出合(6:30/50)～クリヤ岩小舎(7:00)～3ルンゼ取り付け(7:30/40)～クリヤ岩小舎～錫杖沢出合(8:15/9:00)～1ルンゼ取り付け(9:30)～1ルンゼ 1P 登攀開始(10:10)～下降～錫杖沢出合(11:35/11:50)～駐車場(12:50)

「」 6月5日(日) 「」

谷川周辺／高倉山～湯蔵山

「」

◆メンバー：福田洋子(L)、工藤寿人、沢口千鶴子、伊藤栄子、山野美香

◆記録：伊藤栄子

水上駅に 9:30 集合し、湯檜曾駅前に回収用として一台車を用意。

土合口よりロープウェイにて天神平着。観光客が多い。私達は片道切符なので駅職員より、工事中のため登山道は降りないように注意を受けた。

高倉山グレンデには、春の花が風に揺られていて、思わず足を止め覗き込んでしまう。

山頂からは、ノルンスキー場、吾妻耶山、大峰山が飛び出た様にくっきりと目に入ってきた。

踏み跡を進んでいくと『登山道無し』の案内杭があり、小ピークを2ヶ所過ぎて送電線下の鞍部に下りた。途中はザレていてビニールのかかったワイヤーが3ヶ所付けられている。

太目のクシャミの様な音が聞こえ、熊との遭遇だと怖いので『おーい』と声をだした。しばらくすると、湯蔵山側から7人程がビニール袋を提げて現れた。蛭のたくさんいた沢沿いを谷川温泉より登って、蕨・こしあぶらをつんできたとの事だった。

方向を確認し、少し登りだしたので山頂に向いているつもりでいたが、気が付くと下る踏み跡に引き込まれていた。(なんとなく入ってしまったようにとスタート時に確認しあったのだが・・・)コンパスをこまめに見てドンドン方位が違ってきているにもかかわらず、もう少し行くと合うのではないかと思ってしまった。10分

ほど登り返し(急坂でなくよかった!)方向が合ってきたため小休止し、藪漕ぎを開始。木々もそれほど混んではないが、コンパスを手から下ろさずにいた。

狭く視界の悪い 1334m ピークを確認し、20mほど降りて次のピークに向かう尾根は非常に狭かったが、ピークはととも明るかった。ここからは狭い尾根が続き、二俣の 1100m地点で方向の確認をした。(鉄骨の廃小屋有り)

決めた尾根にスムーズに乗り、踏み跡も明瞭で(点検作業で使用されているようだ)快調に進み 900m地点で進路チェック。送電線を2本くぐり、しばらくすると踏み跡が今までとは違って来た。

尾根を外さないように掻き分け進み、720m地点で最後の二俣確認のためリーダーが高度チェックを細かくしていた。が、すぐ下に家が見えて気が緩み予定外の尾根に進んだ。登り返しの提案が出たが、そのまま下山し保養荘の裏手に降り立った。

今回もまた、リーダーの読図力の高さを見せてもらい、自分の経験の一つとなった。

【行程】

天神平(10:30)～高倉山(11:10)～高圧線下(12:20)～湯蔵山(12:30)～1110m小屋後(13:40)～900m地点(14:00)～湯檜曾駅(15:00)

「」 6月6日(月)「」

日和田 RCT

「」

- ◆メンバー：伊藤栄子(L)、久野真由美、南谷やすえ、福島彰男
- ◆記録：伊藤栄子

I、マルチピッチでのロープワークの習得
(シングル及びダブルロープ)

- 1.南面クラック
- 2.西面左階段状からトラバースし、トップにぬける

ダブルロープでの登攀では、ロープの流れを考慮してランナーを長くすることに注意した。
また、リード交代時の確保器につけるロープの取り方を確認しあった。

II、トップロープでの登攀練習

- 1.西面 ステミング・バルジ・クラック・アンダークリングフェイス

各自、レベルアップの為にチャレンジをした。

【行程】
開始(9:00)～終了(16:00)

「」 6月12日(日)「」

日和田 RCT

「」

- ◆メンバー：伊藤幸雄(L)、伊藤栄子
- ◆記録：伊藤栄子

(トップロープでの登攀練習)

- ① 岩北面ハング 限定ルートI
右側リッジを使用せず、正面の指先によるホールド限定
ハングを抜け出る一段に、乗り込むタイミングの取り方が非常に難しく、後ろに倒れてしまう。知人が手本として登ってくれたが我々と違う点は岩から離れるように立ちこんでいた。 限定グレード 5.10a

②バルジ限定ルートII
左右のリッジを使用せず中央のみのホールドをつかって登る。
ガバのホールドはないので指先および手全体でホールドするかたちになる。
限定グレード 5.10

【行程】
開始(14:00)～終了(17:00)

「」 6月17日(金)～6月18日(土) 「」

カモシカ山行 奥多摩／仏沢～三頭山

「」

- ◆メンバー：久野真由美(L)、福田洋子、阿出川忍、沢口千鶴子、南谷やすえ、伊藤栄子
- ◆記録：南谷やすえ

武蔵五日市駅バス停前に午後9時、中高年の女性6名が集合した。仏沢の滝入り口で下車し、午後10時スタート。

暑くもなく寒くもなくのんびりと林道歩きをしながら、たわいのないはなしをしながら峠の茶屋着。

北秋川の集落の明かりがぼつんぼつんと見える。ここより山道に入る。昔桧原と数馬を結び主要道だっただけあって歩きやすくしっかりした道である。しかし、暗いところを歩くというのはいづいぶん歩きにくいもので、そんなことを感じるだけでもカモシカ山行をやったかいがある。

浅間嶺のあづまやで仮眠。薄手のシュラフでうとうと快適だった。午前3時半歩き始める。空が明るくなり奥多摩周遊道路に出る。

さあ三頭山への登り。頂上では視界がきかなかった。降りて避難小屋へ、きれいでのんびり山行にはいいね。そして檜寄山付近で数馬へ降りることに決定。降りて数馬の湯へ。今日は誰も車に乗ってこなかった。風呂上りの生ビールはうまかった・・・

こんな体験が実は人生の贅沢。もちろんカモシカ山行のことだよ。まだまだこの地球上でやりのこしていることたくさんあるな。無名山塾の活動だけじゃないけど今回もなかなかおもしろかった。

久野リーダーお疲れ様でした。

【行程】

払沢の滝(22:00)～時坂(22:53)～浅間嶺(0:18)仮眠(3:30)～人里(3:49)～一本松(4:43)～数馬の分岐(5:09)～藤原(5:47)～都民の森(7:28)～鞆口峠(8:25)～三頭山(9:53)～大沢(10:36)～檜寄山(11:55)～西原峠(12:00)～数馬(13:10)

「」 6月18日(土)～6月19日(日) 「」

カモシカ山行 長谷川杯コーストレース

「」

◆メンバー：松永己幸(L)、神森揮要子、尾久一朗、高橋一也、小室郁子、小室宏文

◆記録：小室宏文

今回は本科に入会して初めての自主山行、それも普段経験をしたことのない「カモシカ」とは。自分にとってはおそらく山塾に入会しなければ経験していないであろう山行形態の一つであろう。

梅雨入りして間もない日にもかかわらず月もおぼろながら見えるという幸運な天候の中、武蔵五日市駅にPM22:00に集合し6人での出発でした。

雨は降ってはいないものの、そこは梅雨、少し歩くとやはり汗ばんできます。体温調整を一つ一時間ほどでいよいよ山の中へ、民家の明かりも無くなり光といえば遠くに見える夜景のみでついに始まったなという感じです。

休憩を取りながら順調に歩いていたのですがおそらく2時近くからでしょうか、ついに襲ってきました。何が？ってそうです「睡魔」なのです。居眠り運転はけっこう経験しているのですが居眠り歩きは初体験でした。この頃から翌朝の7時頃まで実は記憶が飛び飛びなのです。ある時、休憩中にふと居眠りしてしまい、皆さん気を使って頂いたようで気が付くと30分ほ

どの大休止になっていました。そんな中、3時を過ぎた頃から徐々に空が白み始め小鳥も囀り出す頃には一気に明るくなり眠気のほうも徐々に解消され清々しい朝を迎えることが出来ました。

7時ごろには生藤山に達し、どんな人に初めて行き会おうか等と話題にしながら順調に歩を進め、歩き始めて14時間後ちょうど12時頃に笹ヶ塔峰手前に達しました。皆、休憩以外は仮眠も取らずに歩き通したという達成感を感じていたようです。目標としていた西原峠のやや手前でしたが入浴やバスの時間などを考えここで下山することになりました。

<今回経験できた事、感じた事>

●ルートはよく整備され歩きやすかったが、道標がやや分かりにくい所では皆で検討し、迷うこともなく無事に通過できた。

●休憩など機会あるごとに地図を見て位置確認をした。

●体調やスピード等遠慮なく声を掛け合い行動しなければならぬという事。(特に夜間行

動なので)

●闇に対する恐怖心は人数も多かったので殆ど無かった。

【行程】

「」 6月20日(月) 「」

奥多摩／岳嶺岩 A1トレーニング

「」

◆メンバー：伊藤栄子(L)、久野真由美、福島彰男

◆記録 :福島彰男

アブミは過去講習で2回参加しているが、なかなか上手くいかない。今回なんとかしたいと自主に参加。自前のアブミも購入しやる気満々である。

梅雨時なので雨が心配であったが当日は好天に恵まれた。早速自主開始。手始めに垂直岩でトレーニングかと思っただが、リーダーのA子さんはハングの岩に、向かって右側の大ハングからリードで登り始めた。今回の自主の狙いはハングに的を絞ったようである。リップの乗っ越しの所で少し手こずったがそこはなんなくこなしハングを抜け、そして左側にトラバースして小ハング用支点到トップロープをセット。見事である。トップロープが張れなければ今日の目的の練習が始まらない。これで先ずは一安心。

最初は左側の小ハングからトライ。出だしの垂壁はなんとか登るが、ハングになってから二つ目のボルトで行き詰る。次(三つ目)のボルトに移れないのである。遠くにあつて全く手が届かずアブミが掛けられない。全員トライしたが進めず。よく見ると遠いボルトの手前に先端の欠けたと思われるボルトの残骸があるではないか。「そうかこれが無いからすすめない」と勝手に決め込む(去年もそのボルトが無かったまま登ったのか)。いずれ判るが今回はこのルートは不可能と思い右の大ハングでトレーニングを続行(大ハングで最初のハングを越え残置スリングのある所まで登る)。

Kさんも完登。残るはF。ハングまでいくが、そのあとのリップの乗っ越し部分で手こずりギブアップ。ロープで降ろして貰うが、その後の残置アブミの回収が大変。回収のため登り、ハングの所のアブミの回収は出来るのだが、垂壁

武蔵五日市(22:00)～入山峠(24:45)～市道山(3:35)～醍醐丸(5:10)～生藤山(7:00)～土俵岳(9:50)～笛吹峠(11:15)～笹ヶ塔ワ峰手前(12:00)～数馬の湯(13:15)

の所がトップロープで引っ張られているので回収が出来ないのである。仕方がないので一旦降り、また登って回収に行く有様。本当にアブミの練習は時間が掛かり疲れも一入だった。

最後にトップロープ回収のため再トライしたが、リップの乗っ越しのところで、またもやまたつきギブアップ。その為、トップロープの支点回収が出来ず。回収の為ハング岩の上まで行くことになってしまった。これまた上まで行くのが一苦勞。岩の上はトップロープの上の部分。今にもその突き出た部分が割れて落ちるのではとヒヤヒヤする。懸垂ロープをセットしKさんが先に懸垂したが、その後が大変。空中状態のままでの作業。仮固定やら、さらに登らなければならなくなりプルージック、タイブロック等を使い、苦勞の末トップロープのセットを回収したのである(あとからKさんから聞いた話)。そう言えばKさんはいつもロープスリングを3～4本肩に、腰にはテープスリングを2～3本、タイブロック付き0型カナビナをいつも身に付けている。今回のような咄嗟の場合でも対応出来たのである。改めて感心させられた。

最後に登りきった二人にポイントを聞いてみた。

A子さん:「リーダーとしてやらなくてはいけない状況だった事が登れた一番のポイント」

Kさん:「動作のロスを少なく・所要時間を少なく、腕の負担を軽減がポイント」

アブミはテクニックと改めて痛感した。いろいろな事を学んだ一日だった。

【行程】

トレーニング開始(10:00)～終了(16:00)

「」 6月25日(土)「」

八ヶ岳ノ小同心クラック

「」

◆メンバー：横川秀樹(L)、伊藤幸雄、山野美香

◆記録：伊藤幸雄

小同心は今年の冬にチャレンジしたが強風でビビってしまい尻尾を巻いて失礼している。

それならば夏に軽く登っておくかと思い、またも同じメンバーで再チャレンジとなった。

朝 5:30 に美濃戸口集合、行くと熟年登山者で朝から大賑わい。この時期、高山植物観賞で大勢の登山者が八ヶ岳には入るようだ。

美濃戸まで車で入り赤岳鉱泉には 7:40 に着いた。早速、小屋にチェックイン。実は前回、事前に個室を予約していたにもかかわらず、夕方チェックインしたら「混んでるときは早いもの勝ちです」と軽く受付の兄ちゃんに言われてしまい、ギューギュー詰めの大部屋に寝かされた苦い経験があるからである。

赤岳鉱泉から大同心ルンゼに向かい、ルンゼを少し上がって左側の大同心稜に入る。ただこの大同心稜、勾配がきつくて貧弱な私の身体にはきわどく効いてしまう？それに比べパートナーのお二人はガンガン登ってしまうし・・・ああ～嫌だいやだ。

赤岳鉱泉から 50 分ぐらいで大同心基部に着く。目の前には大同心、バンドを左に行くと裏同心ルンゼ、そして右側の大同心ルンゼをトラバースすると今回の目的である小同心に出る。ただ、このトラバースは意外と踏み跡もなく崩れやすいので要注意である。

草付のルンゼを登り気味にトラバースして平坦な小同心基部に着く。

小同心クラックのルートにはしっかりした支点がついているので分かりやすい。

①ピッチ目は横川氏、左上のチムニーを目指し登る。ホールド、スタンスとも好きなようーに取れるので安心。約30m登ったところでピッチを切る。②ピッチ目が美香さん、右側のフェース

を登りロープを 25mぐらい伸ばしてピッチを切った。③ピッチ目が自分、やや立った岩肌を登るがホールドはある。ただ、微妙なバランスで登るところもあるので冬のアイゼン登攀ではいやな個所かもしれない。草付を登って 11:10 小同心の頭に到着。真下には赤岳鉱泉、更に廻りには八ヶ岳の山々が見え高度感も充分楽しめる。

頭からの岩稜はコンテで進み、横岳頂上直下に進んだ。直下からはビレイをしてもらい頂上を目指し自分がリードで登った。長さとしては2ピッチ程度の登りだが、難しいルートでもなくロープが一杯に伸びたら二人に登ってもらうことにしてピッチを切らずそのまま頂上にでることにした。

階段状のリッジを登り、やや右よりのルートでちょっと急な部分もあったが問題なく登り 11:40 横岳頂上に着く。

頂上に着くと案の定、好奇心一杯のオバサン達に遭遇。「あんた達、ここ登って来たの！」「私も若ければ登りたいなー・・・でも、あなた私と同じくらいの年齢？」知るか・・・よけいなお世話だ！！

横岳からは硫黄岳経由で赤岳鉱泉に降りた。赤岳鉱泉では 15:00 からお風呂に入ることができ、一番風呂で汗を流すことができた。(石鹸は NG、混浴は希望・・・嘘です、男女別)

【行程】

美濃戸口(5:30)～美濃戸(5:55)～鉱泉(7:40/8:00)～大同心基部(8:50/9:00)～小同心取付(9:40/10:00)～小同心ノ頭(11:10)～横岳頂上(11:40/12:10)～硫黄岳(12:45/12:50)～赤岳鉱泉(13:55)

「」 6月26日(日)「」

八ヶ岳ノ中山尾根

「」

汗だくでのが濡かわく。

ある程度水があれば、適度に体を冷やしながらの遡行となるのに。ほとんど沢シューズを濡らすことが無い。しかし、次から次へと小滝が現れ、けっこう楽しい沢歩きが出来ました。

山道に出て、大高山頂へ。山頂にある茶店に“氷”の旗が……あまの暑さで、“かき氷”食べたいネーと言いながら遡行していたので、びっくりすると同時に即全員イチゴのかき氷を注文していました。

下社へ下山、歩いて車の置いてある大山ヶーブル駅へ。東海大学前駅近くの湯“ほたる”で汗を流して帰宅。

大山川遡行は秋に行くのがいいかも。わらじ納めなどにね。

【行程】

大山川入り口F1二重の滝(10:00)～F2～F7
～大山山頂(14:00)

■ 同人便り ～思い出の山行～ 【平井 真】

このところ随分と山塾の山行・集会に参加していないので同人とはおこがましい限りの私だが、道を失いビバークしたとかホワイトアウトでリングワンデリングしたとかの大きな失敗はない。根が臆病で、ハードな山やリスクなルート・日程をなるべく避けようという意識がいつも働いているのか、結果的に安全な山ばかり行っているのかも知れない。という訳で、自分自身には素晴らしい思い出として残る山、辛かった山はそれなりにあるが、「思い出の山行」として紹介する段になると、他の人から見ると平凡な余り面白くない山行録になってしまう。唯一記録的な意味で紹介するとすれば、山塾に入る前に参加した 1990年4月の”外秩父七峰縦走ハイク大会”である。

この大会は 1975 年に始まった〇千人規模の大きな市民ハイキングで、東武東上線小川町駅をスタート、比企丘陵の 300～900m の低い山々を C の字型にグルーッと回って約 40km、東武寄居駅に至る長距離ハイキングである。

低い雲が垂れ込め今にも雨が落ちて来そうな肌寒い 4 月 22 日 日曜日朝、小川町駅を定刻 6 時から 30 分遅れてスタート、すでに沢山の参加者が前にゾロゾロ歩いている。中高年のグループが多く、それぞれのペースで喋りながら歩くものだから、道の狭い所では詰まり、登りになると詰まりでまともに歩けない。タイムトライアル的な山岳レースの感覚で参加した当方は、それなりに脚に自信もあり一人なのでマイペースでサッサと歩きたいのに詰まったり止ったりで、最初の官ノ倉山(344m)まで 1 時間も掛り、苛々して気分的に疲れてしまった。

官ノ倉山から一度山あいの里に降りた辺りからやっと人の列がバラケ始め、マイペースで歩けるようになった。霧雨が落ち始めた中、笠山(837m)の大きな登りも一気に登り、堂平山(876m)から剣が峰・白石峠・定峰峠を飛ばして、大霧山の一番きつい処を頑張って 13 時前に大霧山(767m)山頂到着。残りあと 1/3 で気も緩んだのと、オーバーペース+ガス欠で大休止 30 分。

残りは余りアップダウンのない丘陵部を愛宕山(655m)、皇鈴山(679m)、登谷山(668m)とこなして、長い下りを下り 16 時チョイ過ぎに寄居駅ゴール。標準コースタイム 12 時間半を 9 時間半でこなし、30 分も遅れて出たのに何と 123 番着だった。

かなりのハイペースで長時間歩いたので疲れ切り、汗と雨でグショグショ、足もヨレヨレだったが、自分としては目一杯頑張って完歩できた満足感で、完歩証と参加賞を貰って気持ちよく帰路に着いた。これが私のフルマラソンへのキッカケとなり、翌年からいろいろなマラソンレースに出るようになった。

翌年 91 年度は 1 歳半の娘を背負子に入れて妻と 3 人でのんびり歩き、午前中で 10km くらい歩いた処でリタイヤ。これも今までで最もゆっくりのんびり歩いた山として思い出に残っている。

皆さん、今まで山の対象として考えたこともなく、名前もおそらく聞いたこともない低山ハイクだと思いますが、カモシカの足慣らしに 1 度いかがですか?!

◆◆◆ 山の学習帳 No.14 ◆◆◆

【アルコール その3】

鍛えると飲めるようになってきている人がいるが、たしかに多少の効果はあるものの、飲める量やペースは主に体質で決まっており、後天的に大きく変えることは難しい。

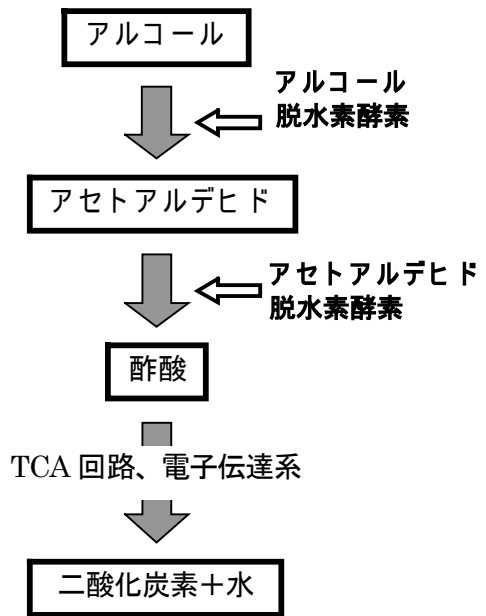
人によっては一口飲んだだけ、重症の場合は匂いをかいただけで泥酔に近い状態になってしまう。これは東洋人に限られており、アルコールを分解する代謝経路がとぎれてしまっている一種の遺伝病、いや遺伝的特性である。

アルコールの代謝は図のようになされるため、アルコール脱水素酵素が弱い場合と、アセトアルデヒド脱水素酵素が弱い場合が考えられるが、東洋人に見られるのは、アセトアルデヒド脱水素酵素が弱い場合だそうだ。

遺伝病？により不幸にも殆どこの酵素が無い人が酒を飲むと、アセトアルデヒドの血中濃度が急激に上昇し、気分が良くなるどころか、飲んだ直後に気持ちが悪くなるだけ。二日酔い・悪酔い状態の原因となるのもアセトアルデヒドであるから、どんな気分になるのかは身をもって知っている人がほとんどだろう。

酒を飲みすぎてしまうのは飲めてしまうからなのだが、これはよく言われるようにアルコールが胃で吸収されるからだけではない。確かにほとんどが胃で吸収されるというデータもあるが、そもそも酒の主成分はほとんどが水であるので、

たくさん飲める理由にはなりそうも無い。実際には水を飲んだ場合には、大雑把に言って必要になるまで水は胃から出て行かないが、アルコールを飲むと、酒が胃を刺激するので、胃が酒を小腸へすぐに送り出してしまふ。ちょうど食べ物を食べたときと同様だ。だから(人によっては)際限なく飲めてしまふし、トイレも近くなる。



(同人・山野)

■講習山行の記録

「」 5月3日(火)~5月5日(木) 「」

南アルプス／塩見岳

「」

- ◆メンバー: 田中良一(講師)、岩崎元郎、阿出川忍、黒田記代、尾久一朗、福島彰男、シニア1名、
- ◆記録 : 福島彰男

一日目: 新宿高速バスターミナル発7時10分の飯田線高速バスに岩崎先生、尾久さん、シニアの白石さんと福島が乗車。ゴールデンウィ

ーク後半(3連休)の初日であるため道路渋滞が心配された。案の定、乗った早々車内アナウンスで道路渋滞のため3時間位遅れる見通しと

の事。先が心配、今日中に三伏峠まで行けるのだろうか。

松川にはやはり3時間ほど遅れて到着。そこからタクシーを利用。途中飯田線の伊那大島駅で黒田さんと合流し(黒田さんは朝8時頃からの駅で待っていたとのこと。大変な事だと思った。ご苦労様です。)途中大鹿村で無形文化財の歌舞伎が行われていた。その模様を見ながら、大鹿村の中心より鳥倉林道に入り林道終点まで行くと思っていたが、登山口手前で車両通行止めになっていた。ここから登山口まで約2キロの舗装された林道を歩く結果となった。登山口入口には大きな標識がありそこで岩崎先生が写真を撮り、いよいよ登山開始である。その時既に15時50分であった。何時頃三伏峠に着くのだろうか。

登り始めからいきなりの急登で堪える。テント装備の山行は今年仙丈ヶ岳について二度目であるが、やはりフル装備のザックは重い。30分位で支尾根の上に出て、急登が終わりホッとす。この当たりから積雪があり、道は左に曲がり支尾根に沿って登る。先発隊(塩見小屋の小屋開けのため応援で先に出た田中講師、阿出川さん)との無線交信を再三するが連絡が取れない。

やがて道は山腹上に沿って登り、そして右に進み三伏峠に向かって西山腹を巻き上げて行く。途中何箇所か倒木があって通行するのに苦労させられた。又かなり急な沢筋を何度か重たいザック背負っての通過は雪道なので一層神経を使い疲れを増幅させた。突然阿出川さんから無線が入るが充分な交信が取れず気掛りである。

遅いスタートでも日が長くなっている事と、又晴れていた為かなり救われたが午後7時を過ぎるとやはり暗く、ヘッドンつけての行動は雪もあって非常に歩きにくく苦しかった。塩川合流(分岐)付近では疲労も極限に達していた。この分岐の先でようやく気になっていた先発隊との交信が出来、一安心。

三伏峠についてのは午後8時を過ぎていた。無線連絡で状況を知った先発隊がお湯を沸かしておいてくれたので、疲れた我々は本当に助かった。田中講師、阿出川さんありがとうございました。

それからテントを張り食事をするが、疲れのた

め好きな酒も余り進まず食欲も出なかった。本当に疲れた一日であった。就寝午後10時であった。

二日目:4時起床。5時35分、アイゼンを着け、今日のリーダー田中講師のもとに出発。風もなく素晴らしい天気である。今日の三伏峠小屋から塩見岳のコースは地図で読むと行程の三分の二位は登ったり下ったり連続である。楽なように感じるがこういうコースは疲れる、特に帰りが大変そうである。

暫くは尾根筋を歩く。30分位登った三伏峠の頂上から後ろを振り返ると朝日を受けた赤石岳、聖岳が鮮明に輝いている。正面には太陽の光に阻まれ見えにくい塩見岳の雄姿が見える。素晴らしい山の朝である。そして更に進むと、今度は後方に雲一つない青空のなかに赤石岳、聖岳に加え、兎岳、中盛丸山、大沢岳が見えてくる。なんと素晴らしい山々なのだろう。朝の山は空気が澄んでいるので一層山々はくっきり冴えるのである。昨日の疲れを癒してくれる。

登り始めて一時間位経った所でアイゼンを外す。今までは尾根筋のアップダウンだったがこれからは権右衛門山南斜面の長いシラビソの樹林帯をトラバースする。シラビソの枝が我々の行く手を阻み、それを掻き分けて通るのに大変な労力を使いうんざりさせられた。ようやくその枝から解放され尾根上に出て塩見小屋に到着。小屋では小屋開けの為、雪掻きの真最中。昨日まで雪掘にお手伝いしていた田中講師、阿出川さん達が掘っていた大きさは凄かった。大勢の方が何日もかけての作業に驚く。大変な作業である。

塩見小屋から眼前に見る塩見岳の迫力は凄かった。真青の空に浮び上がった塩見岳の雄姿に見とれ暫し陶醉。ここから最後の登り。天狗岳を越えると頂上までは岩稜地帯なので慎重に登る。10時40分について三角点のある西峰に。そしてそこから10m位先にある東峰に10時45分登頂。頂上からの景観は最高。富士山、南アルプス、中央アルプス、そして北アルプスが一望である。しばし西峰で休憩し下山開始。余りにも天気がよいので暑い。シャツ一枚の人、半袖シャツになる人もいた。あまりにも穏やかな陽気なので塩見小屋で再び大休止。13時塩見小屋に別れを惜しんで下山。無事テント場に

16時到着。

今日は昨日と違って、黒田さんが持参したご馳走で宴会が始まった。酒が美味しい。素晴らしい一日であった。

三日目：4時起床。今日も快晴。5時40分下山開始。登山道入り口に8時40分。そして鳥倉林道車止めの所に9時30分無事下山。いろいろ苦労があったが本当に素晴らしい塩見岳の山行だった。塩見は遠かった。

【行程】

5月3日

鳥倉林道車止め(15:00)～登山道入口(15:50)～三伏峠小屋(20:00)

5月4日

三伏峠小屋(5:35)～塩見小屋(9:10/9:25)～塩見岳西峰(10:40)～塩見岳東峰(10:45)～塩見岳西峰(11:00/11:25)～塩見小屋(12:15/13:00)～三伏峠小屋(16:00)

5月5日

三伏峠小屋(5:40)～登山道入口(8:40/9:00)～鳥倉林道車止め(9:30)

「」 6月4日(土) 「」

広沢寺／RCT

「」

◆メンバー：小林英男(講師)、向原侑希、久野真由美、南谷やすえ、福島彰男、神森揮要子、遠足1名

◆記録：神森揮要子

午前＝岩が濡れていたののでトップロープでの練習、落ちた時の体制のとおり方、懸垂下降、懸垂下降時の仮固定の仕方

午後＝天気も持ち直し、岩も乾いてきたので、リード・セカンドの引き上げ・懸垂下降とセットで何度も練習を繰り返す。少し手順にも慣れスムーズに出来るようになった。

終了間際、一般中央ルートでのトップロープによるタイムレース(持ち時間3分)緊張とプレッシャーの中2分10秒で登る事ができた。いつもながら内容の濃い講習に大満足。

昼食も忘れ、何度も練習を繰り返したが、リードではまだ自信がなく出来なかった。これからは、リード・スムーズなロープワーク・岩の状態の読み取り・的確な判断などを課題としていきたい。スズメバチ・蛙の思わぬ訪問をうけ岩よりビビった1日でもあった。

【行程】

ゲレンデ(8:30)～終了(15:30)

曇り時々小雨

「」 6月5日(日) 「」

丹沢／マスキ嵐沢

「」

◆メンバー：小林英男(講師)、南谷やすえ、久野真由美、松永巳幸、みどる1名

◆記録：松永巳幸

このところ降雨が少ないためか、沢の水量が少ない。F1ではシャワークライミングともの本には書いてあるが、かなり貧相なシャワーであった。一方水量が少ないのでナメやスラブでは、気持ちの良い沢歩きができた。

この沢は外傾している岩が多く、一枚岩や、

ナメが多い沢である。また、滝とナメが交互に現れ、いろいろな要素が多くあるので、楽しめる。

更にF3ではハーケンを打つポイントや、ハーケンのサイズ、利かせ方、抜き方を学習し、実際に打つてみて、ハーケンを打つ難しさを知る。当然ながら、トップをいく場合、ハーケンは

自分の命を守る物なので、特に練習では自分が納得いくまで打つことは大切である。

F4 ではロープワークを練習させていただき、沢での迅速なロープワークの時のビレイポイントの指示を受ける。現在はすべて指差し確認で行動し、最初に学習した通り一遍しか行動できていないが、登る場所の傾斜やビレイポイント、登る人のレベルを総合的に見極め適切な判断を実行するという大きな課題ができてきた。

F5 を登りきると、ここから引き返し、沢下りとなる。ここから懸垂下降とクライムダウンでの沢下りだ。懸垂支点を探すということは大切で、下りは登りより慎重になる。でも一本の沢を二倍楽しむ方法？の一つだと感じた。

【行程】

入渓(10:20)～下山(15:00)

「」 6月11日(土) 「」

奥多摩／倉沢谷本谷

「」

◆メンバー：工藤寿人(講師)、横川秀樹、福田洋子、福島彰男、松永巳幸、尾久一朗、石田勝幹、高橋一也

◆記録：石田勝幹

10:37 に入渓点に到着。コンパス、高度計で場所の確認をする。標高は460mだった。

最初、マイモーズの悪場を見るために沢を下る。現地に到着し景観をみる。ゴルジュ地形だ。有名な場所らしい。どんな理由で有名なのか、また名前の由来もよくわからない。引き返し、いよいよ遡行を開始する。

今回は桐葉窪とは水量が異なった。水の量が断然多いし流れも速い。前日、雨が降ったためであるのか、これが常態なのか、その辺の事情は不明だった。しばらく歩くと私の太ももの部分のハーネスがゆるんできた。原因は私のハーネスは後ろの腰のところが取り外しできるタイプで、工藤講師によると、私のハーネスはフリークライミング用(私はあまり考えないで購入してしまった。何が自分に合うのか、合わないのか、自分で価値判断をしていなかった)ではないかとのこと。ザックを背負って登ると後ろのフックの部分がこすれて、はずれてくるとのこと、前回の沢登りのときもそうだったので、自分一人では理解できなかったが、工藤講師の説明を聞いて理解できた。

11:54 の昼食休憩までザイルを使うという場所もなかった。工藤講師から沢の歩きかたということで講話が少々ある。岩場のような繊細な技術というより、体重をフラットにかけるのが基本ということのを伺う。昼食後、カラビナについての話題があった。基本的なカラビナの形状、日常の

メンテナンスなど書籍にはなかなか書いていない(単に私の勉強不足だが)ことが多かったようだ。

休憩後、ふたたび出発、数分後に枝沢を確認。ここで、ルートファインディングということで再び磁石と地図で現在地の確認をする。2万5千分の1の地図には書かれていなかった。遡行図にはあるらしい。小さい沢なので地図にはのせられないとのこと。福田さんから教わる。その後、高巻くには少々たいへんな滝に出会う。滝といっても正面向かって左側にちょろちょろしたものだ。右側から工藤講師がフリーで登る。その後、ザイルを使い、肩がらみのビレイで次々とメンバーを引き上げる。ここで、私はカラビナをハーネス正面の本来とは異なる部分で固定するというミスをした。そのため、引き上げてもらうとき、ハーネスからカラビナがはずれてしまった。運がよかった。岩場であれば怪我をしていたらろう。こんなミスがないようにと肝に銘じた。福島さんや尾久さんにハーネスのアドバイスをいただく。

そんなこんなで、歩くことにも少々なれてくると、外の景色にも注意がいくようになった。水の浸食作用による地形、運搬作用による堆積物、鹿の骨から鉄格子のようなものまであった。水量が増加し水流が速くなったときに流れ、流れが遅くなった場所に落ちついたのだろう。川の流れが2倍になると相当な大きさの岩も流してし

まうことを思い出した。(正確なことは忘れてしまったが。)山にくるといつも感じるのだが、地質や岩石などの理解を深めればもっと楽しめる。今回もそれを感じた。

その後もうまく登れないところがあった。滝を高巻くときだったが、尾久さんが登った直後、私もその場所に挑戦したが、結果は滝壺に落下した。幸い怪我はなかった。その場所は、横川さんが迅速に判断しカラビナとロープを使い登る人のサポートをした。状況判断と対処の仕方に感心してしまうと同時に自分のふがいなさに恥ずかしさでいっぱいになる。

15:24、無事に魚止めの滝を見学する場所までたどりつく。そこから、林道にでる。林道で途中、崖崩れの場所に出会う。興味深く観察するメンバーもいた。地滑りが日本で一番多い新潟に住んでいる私はそんなに珍しいという気持ちにはならなかった。ただ、山行のとき斜面崩壊(崖崩れ、地滑り、雪崩など)に遭遇する可能性もあるんだなとぼんやり考えた。

講習前、「今回はどんな沢登りになるのだから。」と期待と不安が入り交じっていた。2万5千分の1の地図は用意していた。遡行図はなかったが、あったとしても具体的イメージができるほど経験がない。山塾のみんながいるからなんとかかなと思う。でもそれは「連れて行ってもらっている」という意識だと自覚する。この意識を変えていきたい。そのためにも、沢登りで必要な技術を習得していきたい。また、今回の講習では滑落が多かった。技術的なこと以外の原因として最近、体調の管理が不十分なところがあったと反省する。それが注意力を散漫にし山行に集中できなかった。何事も日頃の健康管理が大切だということであらためて痛感する。ご迷惑をかけるたびに、山塾のみなさんから貴重なアドバイスをいただいた。ありがたいことである。

【行程】
奥多摩現地駐車場(10:10)～倉沢本谷(10:37)～休憩・昼食(11:57/12:15)～休憩(14:41/14:50)～魚止めの滝(15:24)～駐車場(16:07)

「」 6月26日(日) 「」

丹沢／セドの沢左俣

「」

- ◆メンバー：工藤寿人(講師)、田口浩昭、黒田記代、伊藤栄子、田中治男、松永巳幸、小室郁子
- ◆記録：小室郁子

梅雨入りしたはずなのに・・・？当日は30度を超える真夏日となりました。

「沢の季節だね～♪、沢はやっぱり気持ち良いね～♪、ルンルン♪」という講師の言葉に大きく頷き、「楽しかった～♪」とまず、戸沢駐車場に戻って来た時の私の感想です。

お知らせ

メーリングリストのご紹介

無名山塾の本科、研究生、同人、講師の連絡用にsanjc2004メーリングリストが運営されています。現在、本科生9人、研究生5人、同人16人、講師3人が登録しています。登録がまだお済みでない方は是非登録の申し込みを下記アドレスまでお願いします。

sanjc2004@yahoo.co.jp

今回の講習「セドの沢左俣」は、戸沢駐車場まで車で入ることができ、(甘えることになりましたが)乗せていただきアプローチが無くとも楽でした。

小心者の私は、「すごい水量の滝がでてきたらどうしよう・・・落ちたらどうしよう・・・」と不安を待ってのスタートでした。

まず20分程で水無川本谷F1が表れ、水量も滝のごとく(当たり前ですよ！)、上からバシバシと落ちていたその中を直登すると聞いて内心ドキドキしていました。水中眼鏡をした松永さんがリードして、プルーヅックで皆登っていききました。水をかぶりながら登るのは初めてだったので、コンタクトが流れたらどうしよう・・・とヒヤヒヤしました。色々と他に気が回らず、ロープを上げるのを忘れ足元より下の所に手を伸ばして引

き上げたり、スムーズとはいきませんでした。若葉マークの私以外、皆さんベテランの先輩方達でしたので「ブルージックで・・・」、「ビレイして・・・」の声にてきぱきと準備が進んでいき、見ているだけの私でしたがとても勉強になりました。

落ちる事を想定してはいけませんが、万が一何かトラブルが起こった時に対処できる技術、経験を持つ事で登って行く気持ちに余裕が出てくるのかもしれない。

要所要所に看板があり間違えることは無く F1、F2 と進み右俣との分岐があり、F3、F4 と進み F5 大滝 13m が現れました。水はさほど多く無く、右側を直上し右壁へトラバースするルートで田口さんがトップで登り皆続いて登りました。下から見上げるより実際登ってみると感覚が違うものですね。何とかなるもんだ・・・とホッとしました。

さらに進むと白竜の滝あたりに水場があり、昔は書策小屋まで担ぎ上げるためペットボトルが置いてあったとの事、でもありませんでした。(書策小屋は閉鎖されていた為らしい)

しだいにガレ状になっていき「ラク!!」の声が度々聞こえました。徐々に沢が涸れてきて二俣、三俣に分かれている場所では必ず地図を出して現在地確認、皆で意見を出し合う事の重要性を学びました。ガレ場が赤土になり草付きになるとすぐ稜線に出ました。

新大日と木ノ又の中間のコルに出ようとコンパスを合わせて進んできたのですが「ピタシカ

ンカン」で稜線にでた時は皆で「ばんざ〜い！」の合唱をしました。こういう楽しみもあるんだな〜と私の「山の引き出し」が又一つ増えました。

今回は腰まで水に浸かり、頭からしぶきを浴びたのですが、時間が経つと自分が臭くて！臭くて！これが沢の臭いなんだ〜と良く分りました。セドの沢左俣は水量も適当にあり(残念ながら泳ぐ程の滝壺はありませんでしたが・・・)ちょっとドキドキもあり、私の好きなガレ場もあり本当に楽しい沢でした。工藤講師、皆様楽しい一日をありがとうございました。

【行程】

戸沢出合(9:30)〜水無川本谷 F1(9:50)〜セドの沢左俣 F3,F4(11:00)〜新大日と木ノ又の間のコル(14:50)〜政次郎尾根〜戸沢 P(16:30)

お知らせ

原稿の宛先

月刊岩小舎の原稿は、下記までお願いします。

講習山行⇒福田洋子

自主山行⇒伊藤幸雄

同人便り⇒坂口理子

今月の一言⇒久野真由美

メールアドレスがわからない場合は、

sanjc2004@yahoo.co.jp までお問い合わせ下さい。

■じん帯繁盛記 その10 ~矢田 実~

「妄想空間 編」

扉を開け手術室に突入。明るい室内には、クラシックの BGM が流れていた。ちょっと意外。手術台に仰向けになる。幅が狭く、真ん中に寝ないと落ちそうだ。見上げれば円形のライトが眩しい。向かって右手に、数台のモニターが並ぶ。関節鏡に使用するものだろうか？左側のライトテーブルに、次々に MRI やレントゲンの写真が並べられて行く。自動血圧測定器や心電図のパッドを取り付けられ、生理食塩水やリンゲル液の点滴の用意が手際よく行われる。横向きに寝

て海老のように丸くなり、いよいよ麻酔の開始。「注射します。動かないでください。」腰の部分に押さえつけられるような痛み。薬が入って来るのが分かる。「お尻と足先が温かくなってきましたか？」麻酔医の先生から声がかかる「はい・・・」すぐに麻酔が効き足先が痺れ始めた。仰向けに戻され、両手を手術台に固定。シーツをかぶせられ、胸の部分から目隠し。ここで作業の状況が良く見えなくなった。

続いてなにやら下腹部に違和感・・・？どうも T 字帯をつけ尿管を挿入したようだ。左足の付根は止血帯で固定された。「ここを触られている感覚はありますか？ここはどうですか？」麻酔の

効き具合を確認。太ももの付け根ぐらいまですでに感覚がない。ここで、執刀医の Y 先生が入ってきた。「気分はどうですか?」「大丈夫です」と答えたが、かなり緊張していた。写真を見ながらスタッフの打ち合わせが行われる。この時少し足を動かそうとしたがまったく動かなかった。完全に麻酔が効いたようだ。

酸素マスクを装着し、手術開始(実際はどこで始まったかは定かではない)。時折聞こえるスタッフの会話に聞き耳をたてる。「……」「××××」よく聞こえない。音声のみの想像の世界だ。見えない分、あれやこれやと妄想が広がる。「はい、これお願いします。」スタッフが出て行く。順番からすると、腱様筋腱を採取したのか?太さが足りなければ、薄筋腱を追加使用しなければならない。蹴り上げに傷害が残るのでそれは避けたかった。再び聞き耳をたて、妄想空間に突入。喉が渴いたので、ガーゼに水を含ませてもらいなめる。時間感覚はすでなし。「……の太さは大丈夫ですか?」「問題ありません。」「はい、じゃ……します。」腱様筋腱は大丈夫のようだ。安堵。ときおり、スタッフの笑い声がする。手術はうまくいっているようだ。

「シュー、シュー」いきなり歯医者さんのような軽いドリル音が聞こえる。テスト用の穴を開けているのだろうか?何回か行われる。続いて「グルルル……」鈍いドリルの音が手術室に響き、振動が体に伝わる。脛骨か大腿部骨に穴を開けているのは明白だ。思わず手に力が入る。「うう……はやく終わってくれ……」心の中でひたすら願う……涙。二回目のドリル音「グルルル……」「ひえ～ご勘弁ください……」看護師さんの話によると、どうやらこのとき脈拍と血圧が上がったらしい。「ゴ・ゴン・ゴツ・ゴツ」今度は、冬の赤岳主稜の岩にハーケンを打ち込むような鈍いハンマー音が響く!伝わる振動!エンドボタンを骨に打ち付けているらしい。ひたすら我慢。「レントゲンを撮ります。連絡してください。」ほどなくスタッフが室外に退避し撮影。すぐに現像されてきて確認。「はい!縫合します。」待ちに待った一言!「は～ようやく終わるよ。」思わず深呼吸。「今、先生が縫合しています、もう少しで終わり

ますよ。」看護師さんからも声がかかる。

「矢田さん、終了しましたよ。」担当の Y 先生が覗き込む。関節鏡によって撮影された「4 枚つづりの写真」と「レントゲン写真」を見せられる。レントゲン写真には、固定用のスクリューとエンドボタンが見える。「通常切れた靭帯が穴から見えるのですが、まったく見当たりませでした。」激しく切れていたようだ。「このように靭帯を再建しました。」見えないので目を凝らし写真をみる。「半月板の損傷は大丈夫でしたから、追加処置は行っていません。」軟骨は年相応に減っていますね。笑いながら説明する Y 先生。

17 時 30 分頃無事手術終了。背中に異状が無い確認後、ストレッチャーに乗せられ病室に移動。母と姉が待っていた。うん?一人足りない……「親父は?」「酔っ払ったので帰った。」とのこと。「はあ～?何しに来たんだ!」「見送ったあと 15 階のラウンジで食事したんだけど、ビール飲んだら、酔っ払っちゃって……」答える姉。思わず苦笑い。Y 先生から家族に手術経過の説明。ベットに移動。左膝を補助枕に乗せアイスノンで冷却。ドーム型の金属柵の上から布団をかけられる。看護師さんの何と手際の良いこと。しばらくして、ここで家族が帰宅。

手術中ずっと寝ていたから腰が痛くてたまらない。点滴と尿管のため寝返りが打てない。おまけに麻酔の影響が出ないよう、枕もなし。頭が苦しい。37 度の微熱 両足の感覚無し。麻酔の余波と、熱のせいで、ぼーっとしていて、思い返せば以降の記憶がはっきりしない。「腰が痛い」これだけを妙に鮮明に覚えている。少しうとうとした。とにもかくにも手術は無事終了。安堵したのも束の間、長い長い一夜が始まった。次回「長い夜編」につづく

※手術時は記録がとれなかったもので、当時の記憶によるものです。多少の間違いはご容赦ください。また、前号で「長い夜編」とお伝えしたのですが、内容が膨らんでしまい上記のタイトルに変更となりました。なにぶん素人の文章ですのでお許しください。

■こちら技術委員会～講師/金沢和則～

<日本昔話>

岩と雪の殿堂と紹介されることの多い劔岳、何度このフレーズにお目にかかったことか。あ、ということで表題はまったく関係ないです。思いつきです。はいっ。

夏に、最近では毎年でもないけど、劔周辺での講習&自主合体の企画がおこなわれていた(この3年ほどは連続しているかな)。

最初に足を踏み入れたときは・・・いつだったっけ。ともかく十何年前、阿曾原から入山。真砂沢をベースに周辺バリエーションを楽しもうという計画だ。日程も1週間近くと長い。

入ったメンバー全員ろくに周辺のことも知らず、でもひたすら前に前に。そんなことからスタートした劔。Web 情報などあったわけではないし、リアルタイムの情報量は少ない。取り付きがどんなで、先々の状況はどうなるのか、まったく各パーティでの判断にゆだねられた。山は歩いたことあるけどバリエーションはほとんどはじめてというメンバー構成が主体だし、雪渓ありの岩場ありで、迷ったり、判断ミスがあったりトラブル全開の毎日。帰ってくるのが夜中になったり、帰ってこないパーティがあったり(ビバーク)で楽しく盛り上がる?! ベース。それでも次の日に行くパーティ編成を組み直し、情報やギヤの整理交換、準備をして朝3時にはスタート。ほとんど意地の張り合いか。パリ・ダカールラリー? 状態。

プランも周辺をよく把握していないので、イメージ、イメージ。真砂ベースからDフェース登攀、チンネにそのまま進み左稜線を登攀、その日の明るうちに真砂に帰ってこよ～っとなんてプランも。これはこれで、それなりにハードなんだけど(そのときはその認識もなかった)。もっとも今ならT岳にいった某パーティならトライするかも…。

ともかく、この最初のいろいろドキドキが劔への思いを深めたのは確かだ。

それから夏は劔が定番に。

個人的には久しぶりに2003年に八峰上半部から本峰というルートで講習をおこなった。上半部はとことん稜をトレースするか、適宜トラバースを選ぶかなど楽しめるコース。このときは一部トラバースをまじえたルート選択だった。終了点は八峰の頭、頭には1.5メートルほどのサイコロ状の岩が乗った状態になっている・・・いや、いた。その数年前までは確かに。いつも押すと微かに動き、不安だったが、何年もそのままだったし、そこまで来ればもう終了だと一息つけるところ。それが無い。だれか突き落としたのか?とも思えたが、よくみれば、そこには多数の岩屑が。

木っ端微塵とはこのことか。冬場、雪をかぶる地形ではゆっくり時間をかけて侵食され岩板自体が崩壊することは理解していたし、そうした跡を見ることはある。ただ乗っかっていた岩がミサイル攻撃でも受けたかのようにこなごなになっているのははじめて見る。時の流れを実感してしまう。

劔は交通機関の関係で室堂方向から入ることが多く、劔沢キャンプ地から眺める劔の姿は特に印象的だが、トヤマ側の街から眺めたり、池ノ平山あたりからアプローチすると異なる険しさと深さを得られる。高山植物の群生地があったりと、いろいろ印象もかわってくるだろう。手近などころでは早月尾根経由で劔を越えて来るとわかるかな、ちよつとだけ。ある意味、劔はメジャーだが、少しはずれると入る人は少なくなる。周辺の山を抱き込み、眺めていくいろいろな面白い山行が組めるところでもある。東京からだ時間が必要だが、それをかけてもいいところだ。



■□■□ 編集室だより ■□■□

先月号に掲載予定だった「南ア／塩見岳」の記録が、こちらの手違いで掲載漏れとなってしまいました。記録を担当された福島さん、申し訳ございませんでした。改めまして今月号に掲載させて頂きました。

スペースシャトル打ち上げ延期…。長い間トレーニングを積み、度重なる延期の末いよいよということで機内で準備万端打ち上げを待っていた乗組員が、延期決定によって残念そうに降りてきた姿が映し出されているのを観て、選ばれてアタックキャンプに入り、いよいよ登頂という朝、天候不順で断念、この二つってなんとなく似てるところがあるかなあ…なんて思いました。

当てにならない天気予報に翻弄された梅雨もいよいよ明けました。この夏は天候不順で登頂断念！なんてことのありませんように。

(m)

~~~~ 7月の一言集 ~~~~

◆今月は、というより今月もほとんど歩けなかった。強いて言えばつづら岩への登りくらい。体重も増え気味だし困ったもんだ。時間ができたら何しようかと企画だけでもせねば。(山野昭)

◆定期健診で膝の関節液を注射で抜きました。関節穿刺というらしいが、これって結構痛て～です。涙！(矢田)

◆「カモシカ山行」とかけて「ドタ仕事キャンの野中」とく。そのころは→「徒歩・とほ・トホ・トホホホ…」(野中)

◆カモシカで、久しぶりに「山を歩いた」。F女史から「久しぶりに登山靴姿を見た」と言われ…。縦走にちょっと憧れています。楽しいよね、絶対！(久野)

◆今月のつづやき「報告書 頑張り書いて チョイト息切れ 登るのも、書くのも苦手…得意なもの無し」(いとうえいこ)

◆待ち遠しいのは夏休み！これは学生時代、今、待ち遠しいのは梅雨明け！ウキウキ気分です。今年には合が入っているのさ！(神森)

◆今年も早々と現れたイモちゃん、それも二匹、恋人かなと期待したらなんとケンカしていた。そのうちイモり屋敷になったらドーしよう(沢口)

◆森林を歩くのが嫌いだったが、カモシカでの奥多摩の広葉樹林は快適で東京の山を見直した。が、翌週行ったプールは極楽だった。墮落…？梅雨なのに暑いつすね～(尾久)

◆『さあ、山へ岩へ！』と動き始めたとたん長男の骨折騒動。はあ…今年の夏は息子のリハビリ担当で、終わりそう…。(Yui)

◆今年初めての真夏日は大山沢、水が無くて暑くて熱射病になるかと思った。(FUKU)

◆小同心クラックと中山尾根では楽しいクライミングができました。雨もなく、風もなく、難しくもなく、他パーティもない。とても爽快で、こんな気分は久しぶりです。(横川)

◆この時期、深夜、上信越を走るものではない。朝のさわやかな光で輝く車をじっくり見てみるとなんとフロントは虫の嵐でごま塩状態…。新車も泣くぜ！(ゆKIお)

◆この歳になると、年間を通じ身体のどっかしら故障中、というのがごく当たり前の状態なんだね。by つづやき太郎(匿名希望)

◆最近遠足のCUで山へ行っている私。遠足の会員さんは、花に詳しい方が多く、私も花の名前を沢山覚えしました。(阿出川)

◆微雨・梅雨語源いろいろある「ばいう」。ことしは降るエリアの偏りも激しいか。山は西寄り企画がいいか？…でも雨男のわたしには関係ないか(笑)(kanazawa)

◆自主山行のメンバー募集に四苦八苦。縦走登山しましょう。(kuroda)

◆沢釣りデビューしました。釣果はゼロです。(松永)

◆帰ってみたらアザだらけの手、足…！アブミの講習頑張りました！…決して Domestic-V ではありません。(KOMURO IKUKO)

◆初講習は皆様のサポートに感謝。自分のあまりの非力さが情けないばかりですが、でも絶対にめげませんよ。これからスタートです。(honda)

◆ハイキング途中、ご主人様の写真撮影をじっと待っているラブ君に出会う。ウチのバカ君(故犬)だったら3秒で野生に帰るだろうに。いやー犬は飼主に似ると言いますが…ん？(R)

## ■6月の山行一覧

|    | 種類 | 場所                    | 日程            | メンバー                         | 記録        |
|----|----|-----------------------|---------------|------------------------------|-----------|
| 1  | 講習 | 南ア／塩見岳                | 5/3-5/5       | 田中,岩崎,阿出川,黒田,尾久,福島,<br>シニア1名 | 福島        |
| 2  | 講習 | 広沢寺／RCT               | 6/4           | 小林,向原,久野,南谷,福島,神森,遠足1名       | 神森        |
| 3  | 講習 | 丹沢／マスキ嵐沢              | 6/5           | 小林,南谷,久野,松永,みどる1名            | 松永        |
| 4  | 自主 | 北ア／錫杖岳                | 6/4           | 横川(L),伊藤                     | 横川        |
| 5  | 自主 | 谷川周辺／<br>高倉山～湯蔵山      | 6/5           | 福田(L),工藤,沢口,伊藤栄,山野美          | 伊藤栄       |
| 6  | 自主 | 日和田／RCT               | 6/6           | 伊藤栄(L),南谷,久野,福島              | 伊藤栄       |
| 7  | 講習 | 奥多摩／倉沢谷本谷             | 6/11          | 工藤,横川,福田,福島,松永,尾久,石田,<br>高橋  | 石田        |
| 8  | 自主 | 日和田／RCT               | 6/12          | 伊藤幸(L),伊藤栄                   | 伊藤栄       |
| 9  | 自主 | カモシカ山行<br>奥多摩／仏沢～三頭山  | 6/17-<br>6/18 | 久野(L),福田,沢口,南谷,阿出川,伊藤栄       | 南谷        |
| 10 | 自主 | カモシカ山行<br>長谷川杯コーストレース | 6/18-<br>6/19 | 松永(L),神森,尾久,高橋,小室宏,小室郁       | 小室宏       |
| 11 | 自主 | 奥多摩／岳嶺岩<br>A1トレーニング   | 6/20          | 伊藤栄(L),久野,福島                 | 福島        |
| 12 | 自主 | 丹沢／大山川                | 6/25          | 伊藤栄(L),福田,工藤,黒田,田口           | 黒田        |
| 13 | 自主 | 八ヶ岳／小同心クラック<br>中山尾根   | 6/25-<br>6/26 | 横川(L),伊藤幸,山野美                | 伊藤幸<br>横川 |
| 14 | 講習 | 丹沢／セドの沢左俣             | 6/26          | 工藤,田口,伊藤栄,黒田,田中,松永,小室郁       | 小室郁       |

## お知らせ

## 無名山塾・本科(登山学校)のご案内

無名山塾・本科は自立した登山者の育成を目的とし、1年間で岩・沢・雪の基礎的な技術(24単位)を取得して頂きます。入会申し込み、お問い合わせは、無名山塾事務局まで電話、FAX、ハガキ、Eメールで。

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 1-39-2-1F

TEL:03-3941-3481(平日 10時-18時) FAX:03-3941-3482

メール: [sanjc@coffee.ocn.ne.jp](mailto:sanjc@coffee.ocn.ne.jp)

入会金:10,000円、年会費:12,000円

山岳保険料:8,000円(4/1～3/31)

## 月刊 岩小舎 8月号の予定

(2005年8月15日発行)

### 【掲載予定】

#### □講習山行

奥多摩 岳嶺岩 A1トレーニング  
奥多摩 岳嶺岩 夏山サバイバル訓練  
奥多摩 火打石谷  
丹沢 小川谷

#### □自主山行

奥多摩 倉沢谷・長尾谷  
奥秩父 ヌク沢  
丹沢 モミジ沢～小草平ノ沢  
奥多摩 倉沢谷本谷  
北ア 燕岳～蝶ヶ岳 縦走  
南ア 鋸岳～甲斐駒ヶ岳 縦走  
奥多摩 小雲取谷  
南ア 北岳バットレス  
奥多摩 軍刀利沢  
奥武蔵 伊豆ヶ岳東尾根

発行 無名山塾(埼玉県山岳連盟所属)

住所 東京都豊島区南大塚 1-39-2-1F

電話 03-3941-3481

FAX 03-3941-3482

HP <http://www.sanjc.com/>

編集長 山野美香

編集部 伊藤幸雄

久野真由美

坂口理子

福田洋子

横川秀樹

#### □机上講座の予定

(於:豊島区立勤労福祉会館 19:00～)

8月25日(木)「山の天気」

9月22日(木)「読図」

☆原稿は8月5日締め切りです。

### ◇本科 25期生 紹介◇

本多美貴子さん／神奈川県(6月入会)

